

相模国六所神社御由緒

人皇十代崇神天皇の頃、出雲地方よりこの地に氏族が移住せられ開墾改された。そして、この地の地名を「柳田郷」と名付け彼らの祖神たる稲田姫命、素盞鳴尊、大己貴尊の名（大国主命）を守護神として石上台、又の名伊勢神台（当鎮座地北西一kmの台地）に祀り社殿を結構し柳田大明神と称して地域の親睦発展は元より、子々孫々に到るまでの弥栄を祈願したのである。この柳田大明神が六所神社の旧名であり、御創建は崇神天皇甲申の歳と言われ今から約二、〇五〇年、一〇〇年前です。

柳田大明神の御加護の元に氏族の人々は、心を一つに和して開墾開拓に辛苦努力重ねられ東国開発の基礎を固められ又相模国の形成に多大なる貢献をなされた。

大化改新後、国の行政も次第に整い国司の制度が始められてゆく中に元正天皇の御代養老二年（七一八年）閏四月八日石上台より、現在の鎮座地に奉遷曆勅を以て相模国八郡神祇の中心をなすべき旨宣下された。

桓武天皇天応元年（七八一年）五月五日早良親王夷賊征討に際し、退壤祈願あり、平安時代に入って相模の国府（今の県庁）が柳田郷に置かれるようになる。柳田郷の地名も相模の国府と称せられるようになった。

大化改新以来国司は、任国に着くと先づ神拝と言つて国中の主たる神々を順拝し国幣を頒つ制であつたが、順拝は大変な日数と費用と人員を要するため主たる神々の御分霊を合わせ祀る社即ち総社を設ける習いとなつた。

相模国の場合、柳田大明神に、一之宮寒川神社、二之宮川勾神社、三之宮比々多神社、四之宮前鳥神社、平塚の八幡宮の分霊を合わせ祀り相模国総社の成立を見ました。又、六ヶ所の神社を合せ祀る所から国府六所宮とも称されるようになった。

相模国府祭（神奈川県無形文化財）もこの時代から「お祭り」の性格を持つようになつたと思われます。そして、鎌倉時代になると源頼朝の崇敬誠に篤く、吾妻鏡によると治承四年（一一八〇年）十月十六日の条平家の大軍が、平維盛を大将として富士川に攻め寄つた時国府六所宮にて戦勝祈願を行う。

同年十月二十三日源頼朝は、北条時政等二十五名の功賞を行う。その規に依り、文治二年（一一八六年）本殿の改造が行なわれ、建久三年（一一九二年）八月九日源頼朝の皇子実朝の安産誕生祈願の為神馬奉納「総社柳田」と記す。

建長四年（一一五二年）四月十四日宗尊親王將軍の事始に、幣帛神馬を奉納以上の様に源頼朝は総社六所宮に対する敬神の念誠に篤く、又相模国を代表する神社として崇敬し特別扱いをしております。

戦国時代には、戦国の雄北条早雲の崇敬も大変篤く御子氏綱が永正年間（一五〇一—一五二〇年）に六所宮の御社殿御造営、又四代目左京大夫氏政公が御本殿の御修復を行つたこの本殿が現在のものです。

天文十三年（一五四四年）十二月二十三日付の北条氏寄付状があり、相州六所領六十五貫七十六文とある。又、大納言徳川家康も相模国総社六所宮に対する崇敬の念誠に篤く天正十九年（一五九一年）武運長久の祈願として六所領（一五、〇〇坪）五十石の寄進状御朱印があり、徳川家光は慶安元年（一六四八年）国家安全祈願として五十石の寄進状御朱印があり、以後歴代の將軍の特別な祈願と六所領の寄進があり明治に至つております。

神奈川県中郡大磯町国府本郷九三五

六所神社社務所

電話 〇四六三（七一） 三七三七番